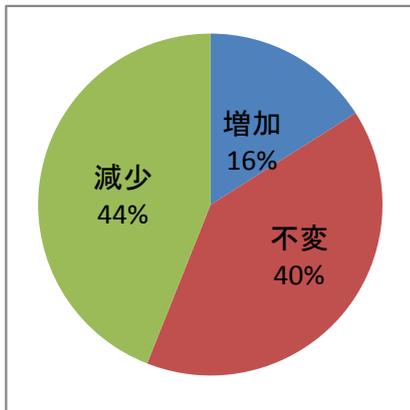


## ■ データから見た業界の動き

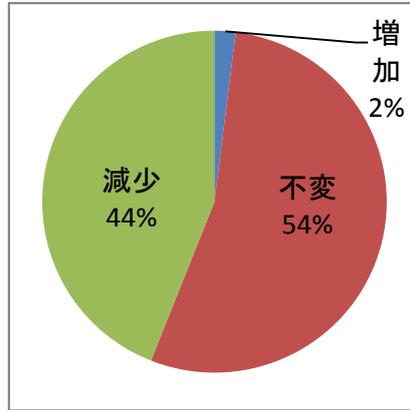
(平成25年11月分)

● 2012 / 11

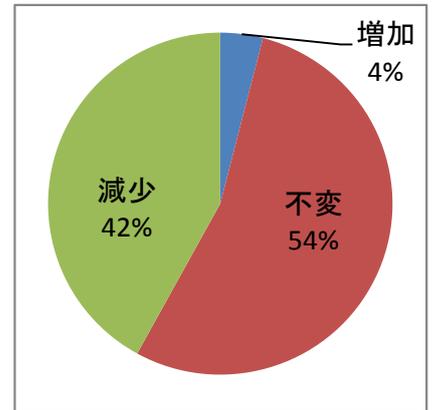
売上高 (前年同月比)



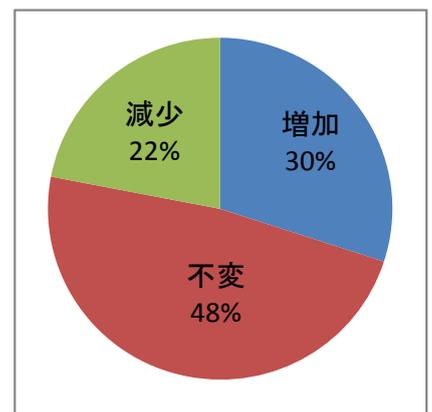
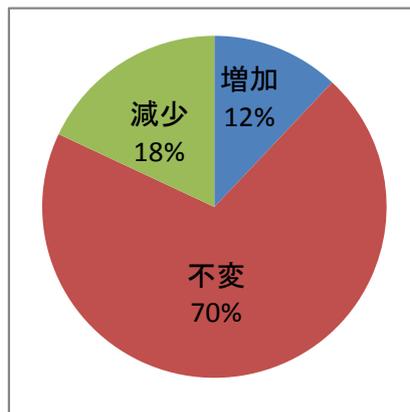
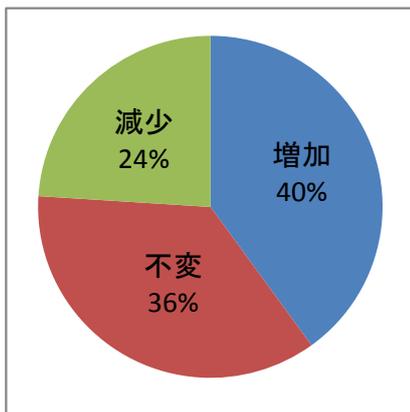
収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



● 2013 / 11



## ■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

	製造業			非製造業			合計		
	2012/11	2013/10	2013/11	2012/11	2013/10	2013/11	2012/11	2013/10	2013/11
対前年・前月・当月									
売上高	-30	-10	15	-27	13	17	-28	4	16
収益状況	-45	-20	-10	-40	-10	-3	-42	-14	-6
景況感	-45	-20	10	-33	-3	7	-38	-10	8

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

## ■ 概 況

本県11月の景況は、全業種のD I 値が、売上高+16（前年同月比+44）、収益状況-6（前年同月比+36）、景況感+8（前年同月比+46）となっており、前年同月比は2ヶ月連続で全項目とも大きく改善した。また、業種別のD I 値では製造業で、売上高+15（前年同月比+45）、収益状況は-10（前年同月比+35）、景況感+10（前年同月比+55）。非製造業では、売上高+17（前年同月比+44）、収益状況-3（前年同月比+37）、景況感+7（前年同月比+40）となり製造業、非製造業とも前年同月比でも先月に引き続き改善した。

さらに、前月比でも製造業が売上高25ポイント、収益状況10ポイント、景況感30ポイント、非製造業も、売上高4ポイント、収益状況7ポイント、景況感10ポイントと全ての項目で改善が見られた。

情報連絡員による県内の11月の業況報告は、建設関連業界は緊急経済対策による公共工事の発注の本格化と2014年4月からの消費税率の引き上げによる駆け込み需要、円安、株高の影響により景気回復が広がっている報告が見られた。

しかし、仕事量の急増から建設業関係に人手不足による工期の遅れが深刻化している報告も多く見られた。

製造業では、全体的に景気改善が見られるものの業種間や企業間に回復の格差が拡大している。また、原材料や燃料等のコスト増加分の転嫁難による収益の悪化の報告が見られた。

非製造業でも、円安による海外からの観光客増加の報告もあったが、生鮮食料品や燃料の高騰、消費税増税を控え消費マインドの低下を懸念する報告も寄せられた。

## ■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

### ● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ホテルやレストラン向けの生食材や加工食品、ギフト関係も好調。全体の売上は、前年同月比105%。年末商戦に期待したいが原材料不足による高騰で採算は厳しい。
食料品（洋菓子製造）	贈答やアミューズメントパーク向けクッキーが好調。また、輸出も前年同月比182%と伸長。全体の売上は、前年同月比111%。
食料品（製麺）	原材料の高騰や消費税増税等により販売価格の値上げを検討している。
繊維・同製品（アパレル）	取引が活発となり景気の上昇が感じられる。今後の展開に期待したい。
木材・木製品製造	建築業関係では、人手不足、足場不足、基礎工事の遅れなどが発生している。急激な建築ラッシュで材料の高騰や材料不足も発生しているためなおさら工期の遅れは進むと予測する。
家具製造	景気の好転は消費税増税を控えての駆け込み需要であり4月以降の需要減退が心配される。
印 刷	回復の兆しが見られない。
窯業・土石（砂利）	昨年度に比べ公共工事が増えたため砂利の供給は増加している。ただし、収益に反映されるのはまだ先になる。

鉄鋼・金属(1)	自動車関連以外は、依然低迷状態だが少しずつ改善の兆しあり。
鉄鋼・金属(2)	業況は悪化傾向。
一般機器	ヨーロッパ、米国の景気が上向きになり受注が出始めている。
電気機器	自動車関係を中心として仕事量は増加しているが、技術力不足や品質管理などが整備されていない中小規模の事業所は依然として仕事量が増えず、企業経営に苦慮している。
その他(鋳業)	骨材の出荷量が低調。
その他(宝飾製造①)	売上は、前年同月比5%増。しかし、一部の高額商品が金額を引き上げているため中級品以下は落ちこんでいる。
その他(宝飾製造②)	一部の得意先からの受注は増えたが全体的には伸び悩んでいる。クリスマス商戦等で受注が増えただけなのか見極めも難しい。

### ● 非製造業

卸売(塗料)	消費税増税前の仮需要が発生しており短期的な景気好転状況となっている。その動きも大型耐久消費財(住宅・自動車)等にウェイトがおかれ、一般の消費の部分には向いていない。4月以降の消費減の反動が懸念される。
卸売(紙製品)	相変わらず国内情勢より、中国の需給状況に大きく影響を受けている。需要はあるのだが古紙の発生が少なく仕入れ競争に陥っているため収益性は良くない。
卸売(宝飾)	OEM関係(クリスマス商戦)が好調のため、昨年より若干好転している。消費税増税による駆け込み需要は実感なし、増税後の売上の落ち込みが懸念される。
小売(青果)	全体的に入荷量が減少しているため、販売価格が約20%上昇している。特に、地菜、干大根等が高値で推移している。年末にかけて価格の変動が大きいと予測。
小売(食肉)	牛肉、豚肉、鶏肉等が、昨年対比10%~15%の仕入価格高で、価格転嫁ができないため収益が大幅に減少している。また、消費税増税への懸念から生活必需品の購買頻度が減少している。
小売(電機製品)	消費税増税前の駆け込み需要や展示会の成果もあり全体的に好調。特に、テレビは回復基調にあるが、冷蔵庫やLED照明は大幅に売上が落ちている。
小売(事務機文具)	消費税増税前の駆け込み需要もなく厳しい状況が続いている。
小売(石油)	円安、ドル高のため原油価格は高止まり、元売り各社は値上げを11月中旬より行ったが、県内のガソリンスタンドはガソリン等の需要減から元売りの値上げ分を転嫁できず厳しい経営が続いている。
商店街(1)	様々な活動を展開し集客を図っているが、1店舗の閉店もあり業況は悪化している。
商店街(2)	景気が改善傾向にあると言われてはいるが全く実感が無い。飲食は若干良いが、物販は厳しい状況が続いている。また、忘新年会の予約も少なく年末年始に向け消費マインドが下がっている感じがある。

不動産取引	消費税増税前の駆け込み需要が先月から止まっている。
宿泊業	行楽やブライダルの宿泊客数は例年並み。また、「エンジン01文化戦略会議」の県内開催は県外参加者の宿泊に多少結びついた。
美容業	イベントシーズンに入り、外出機会が増えたので美容院への来店客数は若干増加した。しかし、高単価の施術は受け入れられず、比較的安価なカットやヘアカラーの要望が多い。
廃棄物処理（事業系）	収益に繋がるような忙しさはない。廃棄物業界は零細企業が多いため景気の減速にはいち早く反応し、景気上昇には鈍い状況が常態化している。
廃棄物処理（産廃系）	事業系廃棄物は公共焼却場毎に料金が異なるため、県内数箇所事業所を有している企業は、事業所毎の契約料金に格差が生じるため信用問題に繋がっている。
警備業	電柱の立替工事が本格化し、昨年を大幅に上回る短期、小規模な警備業務の発注増で人員不足が慢性化している。
建設業（住宅関連）	建築業界は消費税増税前の駆け込み受注の影響から仕事量が増えてきており、職人の不足も出てきている。来年4月以降の反動を懸念。
建設業（型枠）	仕事量は公共、民間共に数多く出ているが、首都圏の工事単価と比べて県内の単価は安く、円安による材料価格の上昇と職人不足による人件費の上昇が課題である。今後しばらくは、この状況が続くと予想され職人不足と職人の高齢化は構造的な問題となっている。
建設業（鉄構）	建設業界全体で社会保険未加入対策による見積書の標準化として、法定福利費の明記を勧めており、当協会の上部団体である全国鉄構工業協会でも、全国の会員企業に対し標準見積書を提示し、26年当初からの現場工事の見積りの運用を目指している。材料費の価格上昇分は、受注価格に反映されているが、加工にかかる単価は依然として低く通常価格に程遠い現状である。
設備工事（電気工事）	消費税の駆け込み需要に伴う見積依頼が一段落した。現場数の急増に伴う人手不足が懸念される。
設備工事（管設備）	昨年に比べると売上は減少している。その原因として人手不足による工期の遅れや受注量を増やせないため。
運輸（タクシー）	タクシーの利用者が減少し、特定地域のタクシーを減車する事業適正化法により1台減車となったため、1台あたりの売上は少し伸びた。しかし、燃料の高騰や消費税増税等に対応しなければならず、今後の見通しは厳しいと予測する。
運輸（バス）	外国人旅行客の仕事が昨年に比べ増加し、単価も1割程度上昇した。
運輸（トラック）	アベノミクス効果は全く感じられず、運送コストの35%近くを占める燃料費の高止まりが経営に大きく影響し、このままでは業界全体が疲弊する。